

委員会視察レポート



本市議会では、常任委員会は「年間活動テーマ」について、特別委員会・議会運営委員会はより良い議会を目指し、それぞれ調査・研究を行っています。

今定例会の初日には、閉会中に各委員会が実施した先進地への視察について報告がありました。ここではその概要をお伝えします。

総務常任委員会

庁舎建て替えには10年後を見据えた検討が必要

〈埼玉県草加市〉

草加市では、市役所本庁舎の老朽化や、行政需要・職員増加によるスペース不足が進み、耐震性も不十分と判明し、平成23年から庁舎の建て替えについて検討が開始されました。現在は令和5年の供用開始に向けた建設工事が進んでいます。検証では、構想から完成まで10年以上経過しており、10年後を見据えた検討が必要という点が参考となるなどの意見が出ました。



7月28日
草加市役所にて

〈東京都清瀬市〉

清瀬市では、平成23年の調査で本庁舎の耐震性能の不足が判明し、その後も環境負荷やランニングコストの高い設備が長年使用されているなどの課題が判明し、建て替えに向けた検討が開始され、令和3年に新庁舎が完成しました。検証では、市民ワークショップの意見を取り入れ、交流スペースを設けるなど、市民が行きたくする施設になっていたなどの意見が出ました。



7月28日
東京都清瀬市役所にて

議会広報委員会

議会だよりを通じて若い世代の政治への関心を高めよう

〈滋賀県甲賀市〉

甲賀市議会では、市民の声を取り入れるため、高校生や女性などテーマを設定し「読者モニター会議」を開催しており、その成果として、情報発信のヒントにつながったり、若者が政治に関心を持つきっかけとなっているとのことでした。検証では、本市でも若い世代に政治への関心を高めてもらえるよう研究を進めていきたいとの意見が出ました。



7月4日
滋賀県甲賀市役所にて

〈石川県白山市〉

白山市議会においては、議会だよりの「難しい」「硬い」イメージを少しでも払拭するため、学生が描いたイラストを表紙にするなど、より身近で親しみの持てる議会だよりを目指しているとのことでした。検証では、デザインや写真などを募集して紙面に市民参加の要素を取り入れたり、若い世代を意識した紙面づくりを行い、若い世代が投票に行くきっかけづくりができないかなどの意見が出ました。



7月5日
石川県白山市役所にて

議会改革特別委員会

議会業務継続計画及び模擬オンライン委員会を視察

〈愛知県岩倉市・京都府舞鶴市〉

岩倉市議会では、災害等発生時における議員や議会、事務局職員の迅速かつ継続的な議会活動の確保を目的とする「市議会BCP(業務継続計画)」を策定しており、フロー図を活用して誰もが理解できるように工夫が凝らされていました。

舞鶴市議会では、本会議及び委員会中を想定した避難訓練やオンラインを活用した情報伝達訓練などを定期的実施するとともに、訓練後の検証をかかさず行い、その都度、災害時対応マニュアルの見直しを行っているとのことでした。

〈茨城県取手市〉

取手市議会では、模擬オンライン委員会に参加し、運用方法を確認しながら質疑応答や電子表決システムを利用した討論、採決を行いました。オンラインならではのルールや言い回しなど、細部まで作り込まれていました。



7月19日
愛知県岩倉市役所にて



7月20日
京都府舞鶴市役所にて



7月22日
茨城県取手市役所にて

議会運営委員会

議会審査にワールドカフェ形式の討議を採用

〈岩手県奥州市〉

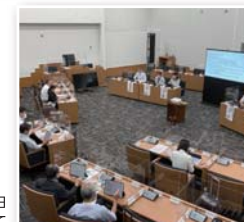
奥州市議会では、市民の意見などをワールドカフェ形式を用いて把握し、所管委員会で2年間かけてじっくり調査し、「政策決議提案」という新たな形で提言をしているとのことでした。検証では、ワールドカフェを用いた、意見を把握する方法については、本市議会としても検討しても良いのではないかと意見が出ました。

〈宮城県柴田町〉

柴田町議会でも、予算・決算審査にワールドカフェを活用しているとのことでした。また、議員間討議の結果、全会一致を得られたものは附帯決議、提言及び要望という形にまとめ、町長へ提出しているとのことでした。検証では、さまざまな意見の中から全会一致が得られる部分について提言する手法は、議会の総意という重みを持たせる意味のある行為であるとの意見が出ました。



7月25日
岩手県奥州市役所にて



7月26日
宮城県柴田町役場にて